平成13年3月　第26号
海蔵社協通算　第47号

地区広報 かいぞう

伝えたい、受け継ぎたい、もはや使われなくなりつつある言葉

神さまの逆襲

海蔵保育園では給食のとき、お茶碗に付いたご飯を一粒も残さず綺麗に食べるため、最後にお茶を注いで食べるそうです。

我が家で夕食の時、「おばあちゃん、神さま集合するから、お茶をかけて」と言う孫に、「神さまの集合?」と聞くと、「一粒のご飯には千人の神さまがいるの。だからお茶碗に付いたご飯粒を綺麗に全部食べるの」「もし残したらどうなるの?」「そんなことをしたら、神さまが怒って神さまの逆襲があるからご飯さらえとるの」と教えてくれた。

こめは八十八回人の手を掛けなければ出来ないから米と書く、だから一粒でも残すとバチがあたる、と教えられた私も思わず自分の茶碗をのぞきこみました。三世代同居家庭の、ほほえましい食事風景です。

『バチがあたる』『もったいない』死語になりつつある言葉の一つです。『神さまの逆襲、神さまのリベンジ』『資源循環型社会の形成、意識の改革』言葉そのものは、どのように変わっても人間としてなくしてはならない大切なことの一つでしょう。

海蔵地区の人口　総数 11,569　男 5,798　女 5,771　世帯数 4,213　(3月1日現在)
編集・発行　海蔵地区社会福祉協議会・海蔵地区市民センター　印刷／阿竹印刷㈱

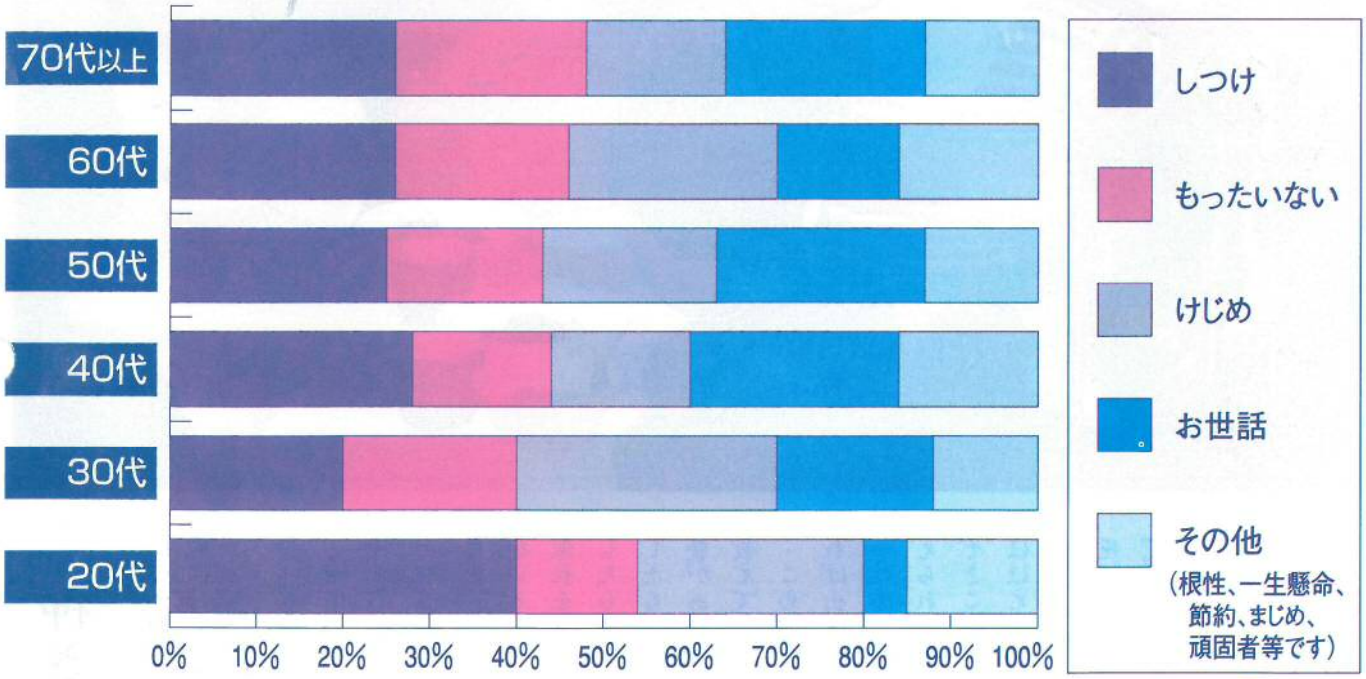
忘れてはならない“日本の心”
大切な言葉

これまで、私たちが受け継いできた言葉の中には生き方を左右する大切な言葉が多くありました。でも今その言葉がだんだん失われつつあるように思います。そこで、これからもぜひ受け継いで欲しい言葉をみんなで考えてみました。

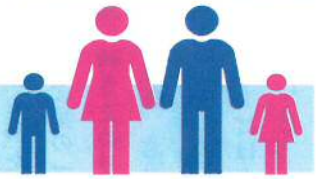
海蔵地区の150人にお聞きしました（アンケート結果）

平成12年10月海蔵地区運動会にて

★あなたが受け継いでいきたい、残したい言葉★



では、どうすれば受け継いでゆけるのでしょうか？



地域のアンケートで一番多くの方が答えられた言葉が「しつけ」でした。老いも若きも次の世代を託す子育てを重視しています。これまで日本人が受け継いできた大切なことばは、ことばの一人歩きではなく率先実行することで、次世代へ伝えてゆけるのではないでしょうか。

そのためには、物と向かい会い、人と向かい会うことから始まります。忘れてならない大切な心をひとつひとつ見直して自分流に温めてみませんか。

はらのたつこと、おさめかた

今、身の回りに起こっている事を振り返ると、迎えた新しい世紀に何が必要かを教えてくれる気がします…

☆いま、あなたの腹のたつことは

思いやりに欠ける、言葉行動
自己中心的な行動（対人関係、車の運転、駐車）
若者の行動
あいさつ（家庭内、職場、街角）
行儀作法、子供のしつけ
銀行、生保の横暴。政治家の汚職
生命を大切にしないこと
何でも人に頼む
子供をしからない親
ゴミのポイ捨て、ゴミの出し方
暴走族
感謝の気持ちを忘れた子供、若者
正直者がバカをみる
税金の無駄づかい
義務教育の過程における教育のまちがい

☆どの様にすれば腹のムシはおさまりますか

（意見の多かったものを抽出しました）

家庭での話し合い（会話）
当たり前の事を各自が守り迷惑をかけない
地域に生きていることを自覚する
社会全体で教育する
根気よく
管理体制を整える。議員は半分でいい
愛情
友人に愚痴を言う
しかる勇気
自分から率先してモラルを守る
普通の車に変えて欲しい
まずは、親の教育
どうすれば、いいの
選挙で選ぶ人を考える
子供に善し悪しを教える

腹のたつこと…

怒る　笑う

一日のうち、何回となく無意識のうちにくり返している、怒りと笑い。朝目覚めて、家族と顔を合わせ、食事して、新聞を読む。それだけでも2～3回感じる怒り、これから外に出かけてからのことを考えるだけで怒りが多くなるような気がする。人によって異なるであろうが、生まれつきの性格か、現在の生活環境のせいか…。せめて一日のうち2～3分自分と向き合う時間を持ったらよいと思うが、自分も腹がたてば必ず相手も腹を立てていると考え、一度大きく息をすると少しは自分の気持ちが静まる。

慶応四年に東阿倉川村役場前に掲示された「定書」です。いつの時代でも倫理、道徳は同じです。

定

一、人たるもの人倫之道を正しくすべき事
一、衆寡、孤独、廃疾のものを憫れむべきこと
一、人を殺し、家を焼き財を盗む等の悪業あるまじき事

慶応四年三月　太政官

右のおおせ出されたを堅く相守るべきこと

安濃津縣

やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、
誉めてやらねば、子らは育たず

現代しつけのススメ

しつけはどこへ

◎躾

平坦には礼儀作法を習わせることですが、教える側の生きる態度が問われているように思います。親の背を見て子が育っているのは、なんと言おうと確かですから。

◎責任

単に自分が引き受けた任務を果たすだけではなく、社会で生きていく力とルールを教え、自らの言動に責任を持って、人と交わる。そんな子育て、ひいては自分育てをしたいと思うのです。

◎叱る

怒ると叱るは大違い、我が子を叱れますか?それは親として、地域の大人としての最低の責任でもあります。

◎親から子へ

家庭ではどうか、今親は子供を叱れないと言われている。虐待につながりかねない感情のみで怒ることはあっても、子供のことを慮っての叱り方をどれだけしているだろうか。これは単なる親への批判ではなく地域の大人として自らが一人の人間としての姿勢をとわれているからでもあります。

◎躾と社会

でも、これは何も難しいことではなく、かつてどの親も普通に繰り返してきた日常茶飯事であった。時には理不尽な叱られ方も記憶していて、拳を震わせて真剣に諭す父の姿に反発しながらも有難く思うものがあった。それほど真剣に子供と接し、子を思い育ててくれたことに今叱られた想い出が私の内でキラキラと光っている。

昨今、家族とそして世間と、つまりどれだけ人と真剣に向かい合っているのだろう。

雑学 躾と右脳

人間の左脳は事務処理能力をつかさどり、右脳は問題解決能力を培うと言われていますその問題解決能力はどんな力といえば「どこまでも相手本位になる」という物の見方、考え方です。

相手の立場になって物事が考えられるということこそ社会的自立につながるのではないでしょうか。

「思想、哲学、道徳、礼儀、躾」を教えることにより、相手本位の器も育ちます。

自分の立場そして相手の立場を切り分けて課題に対処できる大きな力へとつながります。

今一度我が家の躾を見つめ直しませんか。

お世話 地域社会の崩壊

「いまどきの若い者は」古今東西、過去から現在にいたるまで、いつも年長の人間は年下の人間に対して同じ事を思うものです。それが自然な姿であり、そうやって若者の経験不足を嘆いたり、大目にみたりしつつ日々の生活を営んできました。

ところが、「ジコチュウ」な人々が世の中にあふれ、質素倹約・我慢・もったいないなどの言葉も死語になりつつある今、過去の常識は通用しなくなってきました。

「隣はなにをする人ぞ」という言葉さえ、すでに白々しく感じるほど、今や世間は品物と情報に溢れ、人と人とのつながりがうすれ"ものの心"がおざなりになっています。

そのうちに神様からの逆襲があるやもしれません。

けれども、これは「若い者」だけに問題があるのでしょうか?

もっとお世話をし、お世話をされるという関係づくりを見直していかないと折角の地域社会の存続が崩壊の危機にさらされます。

「袖すり合うも他生の縁」人と人とが接する中で出来る事を見つけて施し、又時には助けをもらうことで相見互いの心を持ち続けたい。

ちょっといい話

～つきつめれば愛～

雨上がりの午後電車内の出来事だった。母親に伴われ頭にヘルメット、両ひじにサポーターをつけ松葉杖をつかう、六・七歳の少年が乗り込んできた。身障者のようだった。

中央部に着席した母親の手前で、杖の先がぬれた床で滑ったのか、少年が転び、大声で泣きだした。

乗客の一人が抱き起こそうとしたとき、母親から「お願いです。構わないでください。」さらに「泣いたって、だれも起こさないわよ、自分で起きなさい。それでは立てない。足はどうするの、杖をはなして……」など、矢継ぎ早に、叱り、励ます声が飛んだ。乗客はかたずをのみ、視線が親子にむけられた。

少年は泣きながら苦闘の末、やっとの思いで杖を頼りに立ち上がった瞬間、母親は濡れて汚れた着衣もいとわず、しっかりと少年を胸に抱き締めた。

期せずして車内に拍手がわき、会釈する母親はもちろんのこと、多くの人がこの情景に目を潤ませていた。

ただ優しさと甘やかしだけで包み込む親たちが多い昨今、わが子のために厳しく心を鬼にして立ち向かう母親、そしてこれに応える子ども。まさに、この親にしてこの子あり。最近にない感動を覚えた。

（平成12年7月24日付『産経新聞』投書欄より）

愛に基づいた言動の中には、一見すると、厳しく冷たいように見えるものがあります。

しかし、言動は厳しいにもかかわらず、相手がそれを素直に受け入れたり、その言動を見ていた周囲の人たちが、厳しさと背中合わせにある優しさを感じとることができる場合があります。

叱れる大人になれますか

この言葉は、日本経済新聞に掲載された記事です。地域に住む子供に注意、叱るには大変なエネルギーが必要です、地域の中でもあいさつを交わさなくなった、大人同士の人間関係の作り方などを根本的に考え直すことが必要です。

上手なしかり方　いきなり「ダメ」は逆効果、ゆっくり「どうしたの」、「危ないよ」とやさしく。

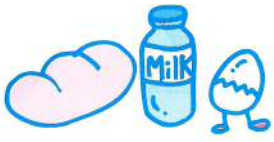
キレナイ親子の食生活

バランスよく食材を選ぶ。赤、黄、緑、白、黒 彩りの良い料理作り。
１日に２５品目以上食べるように心がけましょう。

朝食をぬくとおこりっぽくなる

昨夜から食べていない体には、パン一切れ、牛乳一杯、ゆで卵一個、くだもので元気が出ます。

カルシュウムとビタミンCはいっしょに



カルシュウムは気持ちを穏やかにし、ビタミンCはそのお手伝いをします。チーズとみかん、ジャコとおろし大根。しっかり噛みましょう!

楽しい雰囲気でお食事を

「三つ子の想い出百までも」家庭の味、手作りの心を大切に、家族のふれ合う食事を心がけましょう。公園や庭先でのおにぎり、バーベキュー、鍋物、時には外食もいかがでしょうか。

ひとり言

体内時計の遺伝子…　母親に由来

新聞にこんな記事が載っていた。

昼夜を調整する「体内時計」を支配する遺伝子が、未受精卵から働いていることが、フランスの偉い先生たちの研究で解明された。

多くの生物は約二十四時間周期で体温や血圧、睡眠などのリズムが作られる。

とすると、私の子供たちは寝ぼけたり、体を起こしてもボーッとしているのは私の遺伝子なのか？

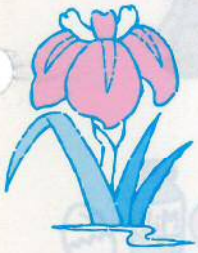
いつも、朝から時差ぼけなのも私からの遺伝子、困った事になった…。今までは、亭主に似ているとばかり想っていたのに。

地区の年間行事

←いぬなしの花満開の下で清掃・雑草抜き

↑一人暮らし老人と保育園との交流会。楽しかったよ！

↑エコクラブ藤原町の子供たちと交流キャンプ



↑菖蒲の苗、植替え作業

↑菖蒲園にはさつきも紫陽花もたくさん植えてあります。
見にきてね。

↑海蔵小・山手中PTAと生徒が社会を明るくする
運動キャンペーンに参加

←センター横花壇、雑草抜き

↑本番はあってはならない消火訓練

↑婦人会の炊き出しいつもご苦労様です

地区運動会　10月

↑小さい子供たちの玉入れ

↑お父さんと
一輪車でボール運び

↑生演奏での行進

↑三世代交流グランドゴルフ大会　―河川敷にて―

↑山手中　職業体験学習10月　―園児といっしょに―

↑地域マップモニュメント除幕式

あみだ橋の由来

野田川が三滝川へ合流する地点に小さな橋がある。国道３６５号が三滝川左岸から離れる辺りである。

野田集落に通じる道があり、４０年前は子供が通学路として通った橋であり、通称「あみだ橋」と呼ばれていた。

橋の由来は、野田にある悟真寺の阿弥陀様が眼の仏様として有名であることから誰言うとなく阿弥陀様に通じる「あみだ橋」と呼んでいた。

７０歳を越す古老はこの橋の袂に駄菓子屋さんがあったことも覚えている。

現在、その橋は疑木のコンクリート橋に生まれ変わっている。

◆知って得する漢字のはなし

躾

しつけとは、身を美しくと書き、めずらしく和製漢字です。身は象形文字で、女性が腹に子供を宿したさまから充実する・いっぱいつまるの意を含みます。美は羊＋大（プラス）で、形のよい大きな羊をあらわします。義・善・祥など全て羊を含むのは、古代中国の周人が最も大切な家畜としたためだと言われています。このため「しつけ」の本来の意味は、身を美しく飾る・礼儀作法・みだしなみなどですが、これから衣服の縫い目を正しくするため「しつけ糸」でおさえておくように、事の善悪をわきまえ行いを正す・倫理観・マナーと同意義語にもなっております。

近年「しつけ」という言葉が、死語になりつつあると思うのは編集子だけでしょうか。近年ＰＬ法（製造物責任法）が施行され製造者の責任が問われるようになりました。

子供の躾は親の最低の責任です。学校に求めるものではありません。

イギリスのことわざに「教育はないがしつけがよい」とあるそうです。最近の日本では、「教育はあるがしつけがダメ」の人が多いようにも感じます。

◆復刻「海蔵小誌」

海蔵地区が四日市市に合併して七十周年になるのを記念して海蔵小誌が刊行された。昭和三十年、海蔵小学校の創立八十周年にあたり、当時海蔵文化保存会にて発行されたものが復刻されたものです。

地名の由来、郷のおこり、所領争いについての記述、四日市萬古がその始まりから輸出産業として発展していく過程など先人の苦労を興味深く読むことができます。

昏迷、変革、節目の世と呼ばれはじめてから既に久しくなりますが、温故知新、今の自分を理解するために、現在の私たちの生活をちょっと立ち止まって見つめるためにも、お目通しいただきたい一冊です。

（お申し込みは海蔵地区市民センターまで）

編集後記

昨年は、シドニーオリンピックの年であった。聞くところによると六万人のボランティアによって大会は支えられていたという。

日本海原油流出の際、多くのボランティアが現地に行き原油の除去作業に従事した。

日本の企業でもボランティア休暇なるものも制定され活発な活動がなされているが、実際にボランティア休暇で活動し職場に戻った時、上司、経営者の目は冷ややかであったと聞く。景気不況の時期、難しい問題である。